

## 土のうによる道直しを体験して

西日本高速道路(株) 横尾俊宏

H23.3.2～3.3 の 2 日間にわたって、ザンビアの首都ルサカから約 40km 離れた Njolwe という地域で約 100 平米の区間の道直しを行い、また、H22.10 に以前修繕した箇所の補修を体験させて頂きました。

道は大量の雨と、過積載の車両通行などが原因で大きな陥没ができており、車でスムーズに通行することが難しい状況となっていました。道直しのために 20～30kg ある土のうを大量に運ぶため体力が必要ですが、作業自体はシンプルで一度方法を習得すると短時間で作業を完了させ、人・モノが不自由なく通行できる道を作ることができます。ザンビアは農業に携わる人が多いことから、「道直し」を行うことによって、地域同士の結びつきを強め、都市部への物資輸送を容易にすることで人々の生活水準を高めることが可能となります。

「道直し」の作業は、現地の人たちによるボランティアで直していくことが最善ではありますが、“援助があれば直そう”と思う意識を持っていることも確かであるため、まずは国または会社がお金を出して現地の人を雇うビジネスの形をとることが人々に「道直し」の大切さを意識づけ、維持修繕を進める第一歩となると感じます。特に、ザンビアは生活水準が高いとはいえ、アスファルトの基となる原油の産出もありません。そのため、アスファルト舗装の道路を作るには経済として厳しい状況にあり、貧困地域でアスファルト舗装の道路が施工されるのはまだまだ先のように感じました。しかし、このまま放置をしているようでは生活水準が向上しないため、低コストでかつ、短期間で整備を行える土のうによる整備は、この国で最適な方法でないかと思います。



今回は貧困地域の生活道路を直し、より便利な生活を送れるよう手助けを行いました。それと同時にこの活動は私自身を成長させることが出来るものとなりました。参加前はアフリカと聞き、治安や病気を恐れて過剰に臆病になっていましたが、貧困地域における発展の手伝いを行うことで、インフラ整備の大切さが分かり、大自然を感じる事ができ、更にメンタル面も強くすることができました。この体験は、「自分を変えたい」、「一歩踏み出したい」と内心では思っている人たちにもお薦めしたいです。

最後に、貴重な体験ができた活動の機会を作って頂いた木村先生には感謝の意を申し上げます。